

## =つっちー&ゆっきー通信=

### 麻疹（ましん）、はしか について ①



～ 副院長 阿部由紀子 ～

麻疹は麻疹ウイルスの感染により起こる急性熱性発疹性の感染症です。

江戸時代までの日本では麻疹は「**命定め**の病」と恐れられていました。麻疹は毎年春から初夏にかけて流行が見られます。最近まで度々大きな流行を繰り返していましたが、ワクチン接種率の向上など多くの努力により国内の麻疹の発症者数は減少しました。平成 22 年 11 月以降のウイルス分離・検出状況については、海外由来型のみ認めており、平成 27 年 3 月 27 日、世界保健機関西太平洋地域事務局により、日本が麻疹の排除状態にあることが認定されました。

しかし、**その後も海外からの輸入例を発端として、集団発生事例は起こっています**。身近に麻疹感染が起こることがあるかもしれません。

#### ■ 麻疹ウイルスの感染経路



麻疹ウイルスの感染経路は、**空気感染、飛沫感染、接触感染**で、ヒトからヒトへ感染が伝播し、その感染力は非常に強く、免疫を持っていない人が感染するとほぼ 100% 発症し、一度感染して発症すると一生免疫が持続すると言われています。

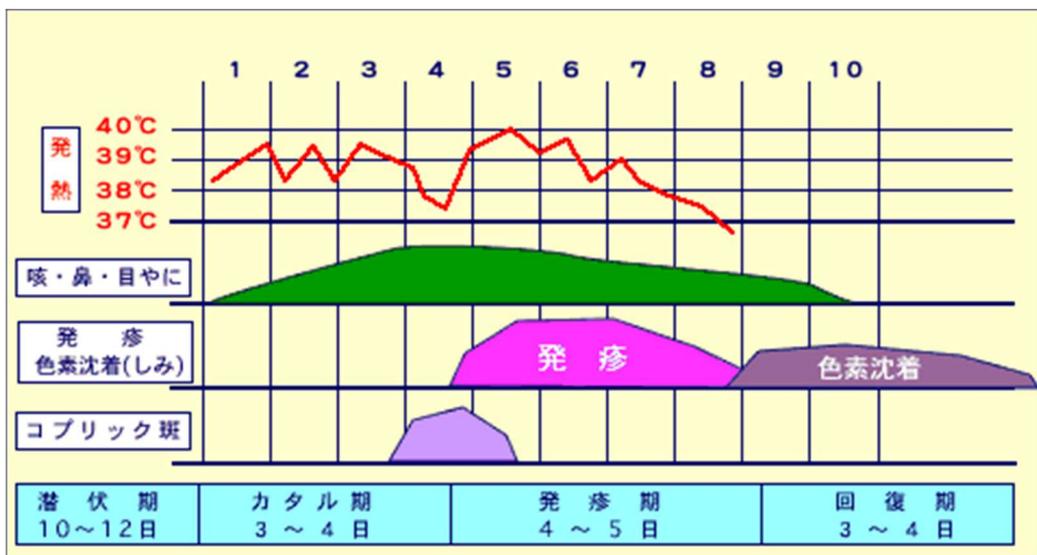
麻疹が周囲の人に感染させることが可能な時期は発熱等の症状が出現する 1 日前から発疹出現後 4～5 日目くらいまでです。学校保健安全法施行規則では、麻疹に罹患した際は解熱後 3 日間を経過するまで出席停止です。

#### ■ 症状

麻疹の症状は、麻疹ウイルスの感染後、10～12 日間の**潜伏期**の後に発熱や咳などの症状で発症します。

38℃前後の発熱が 2～4 日間続き、倦怠感、咳、鼻水などの上気道炎症状と結膜炎症状（結膜充血や眼脂など）が認められます。

この病初期の段階を『**カタル期（または前駆期）**』と呼んでいます。



(…裏面につづく…)

# ひかいクリニックだより

(・・・表面からのつづき・・・)



口内にできる**コプリック斑**はこの病初期の段階に出現する麻疹に特徴的な頬粘膜変化です。

これは、やや隆起した1mm程度の小さな白色の小さな斑点です。

コプリック斑が出現するのは全身の発疹が出現する1~2日前で、このコプリック斑を見つけることによって、全身に発疹が出現する前に臨床的に麻疹と診断することが可能です。

カタル期を過ぎると一旦解熱傾向となり、半日程度経過した後を高熱(多くは39℃以上)と同時に発疹が出現してきます。

発疹は耳介後部、頸部、前額部から出始め、翌日には顔面、体幹部、上腕におよび、2日後には四肢末端に至ります。発疹ははじめ鮮紅色扁平ですが、まもなく皮膚面より隆起し、融合して不整形斑状(斑丘疹)となります。

次いで暗赤色となり、出現順序に従って退色していきます。この時期には高熱が続き、上気道炎や結膜炎の症状がより一層強くなります。この時期を『**発疹期**』と呼びます。

発疹出現から3~4日間続いた高熱は解熱傾向となり、上気道炎や結膜炎症状も軽減し、発疹は色素沈着へと移行し、発症後7~10日後に回復していきます。この期間を『**回復期**』と呼びます。



麻疹を発症した場合は、リンパ球機能などの免疫力が低下するため、しばらくは他の感染症に罹ると重症になりやすく、また体力等が回復するまで1か月位を要し、完全に回復するまでには時間を要すること、合併症をきたす場合があること等を考慮すると、麻疹は罹患した場合は重症な感染症です。



次回は、「麻疹、はしかについて ②」  
合併症や予防についてお話しします。

